



ショッピングモールの駐車場の日本車



パラグアイのショッピングモールの駐車場には、トヨタやスズキなど日本の自動車がたくさん並んでいます。パラグアイは日本から自動車や自動車部品、機械などを輸入しています。パラグアイの街中では、日本で生産された自動車がたくさん走っています。



日本式の教育を取り入れている「NIHON GAKKO(ニホンガッコウ)」



日本で研修を受けたパラグアイ人の教員が、日本式の教育に感銘を受けたことから創設された私立の学校です。この学校に通う95%以上はパラグアイ人です。日本人のように規律正しい学校生活を送らせたい、責任感をもった子どもに育ててほしい、また、日本文化を少しでも学ばせたいという思いから、この学校を選ぶパラグアイ人が多いようです。日本語教育及び日本文化に関する授業のみならず、課外活動として空手や日本舞踊などのクラブ活動も活発に行われています。



イグアス日系移住地の街並み



パラグアイでは、日本人の移住が 1936 年に開始されました。現在、9つの日系移住地があり、約 10,000 人の日系人が暮らしています。写真は約 880 人の日系人が暮らすイグアス移住地の街並みです。公園には鳥居があったり、日本の桜が咲いていたりするなど、日本を感じることができます。イグアス市には、日本語学校や日本の食べ物を買うことができるスーパーもあります。



酪農復興のためのプロジェクト



パラグアイでは安定した生活を維持するために、農業と酪農の複合経営を行う農家が増えてきました。しかし、酪農経験が浅いため、酪農に関する知識や技術が乏しく、農家を指導することができる人もいないという現状がありました。そこで、北海道の帯広畜産大学とパラグアイの日系セタパール財団が共同で酪農技術指導者を育成するためのプロジェクトを行っています。



JICA海外協力隊の活動



青年海外協力隊としてパラグアイに派遣されている太田さんは、カアグアス市職業訓練高校の農牧科で野菜の栽培方法の技術指導を行っています。雑草だらけの更地だった場所に畑を作り、今では生徒たちの手でキャベツやミニトマトなどのたくさんの野菜が栽培されています。